

映画英語教育学会 紀要：映画英語教育研究 第3号 1997年（抜刷）

**米国におけるクローズド・キャプション研究の
成果と日本の英語教育**

**A Review of Closed Captions Research in the United States
-What implications does it have for the EFL classroom in Japan?-**

角山 照彦

米国におけるクローズド・キャプション研究の 成果と日本の英語教育

広島文教女子大学 角山 照彦

クローズド・キャプション(以下CCと略す)については、もともと米国で難聴者向けに開始されたサービスである等、開発経緯について言及されることはあっても、米国の研究成果に関してはこれまであまり言及されることが多くなかった。¹ もちろん米国のESLと日本のEFLでは状況が大きく違い、一概にそのまま受け入れるわけにはいかないが、米国の過去約15年の研究成果は日本の今後の研究の方向性にも示唆を与える部分が多いのではないと思われる。本稿では、これまでの米国における代表的なCC研究の結果(難聴者を対象としたものを除く)を被験者の種類ごと(1. ESL学習者、2. 学習障害・低学力のL1学習者、3. 通常のL1学習者)に分類し、それぞれの結果を概観するとともに、今後の日本のCC研究への示唆について報告する。

1. NCI (National Captioning Institute) の調査報告書

CCに関する初期の文献としては、CCの開発・普及に努めた公益法人全米映像字幕協会、通称NCI (National Captioning Institute)²が80年代前半に発表した一連の調査報告書がある(資料参照)。81、82年まではいわゆる難聴者を対象とした市場調査報告(デコーダーの購買層報告、視聴者の反応、嗜好等)がほとんどであったが、83年に初めて難聴者以外

の学生 (ESL、学習障害のL1学習者) を対象にした学校利用、教育効果に関する報告書 (*Research Report 83-6*) が出され、CC が難聴者以外の層にも徐々に認知され、研究されるようになってきたことがわかる。その後、低学力のL1学習者への読解教材としての可能性、効果についての報告書 (*Research Report 86-1*) が86年に出された。研究の中心人物 (Director of Research) であった Dr. Carl J. Jensema が86年に NCI を離れ Gallaudet 大学に移ってから³は、外部研究者に委託するケースが中心となり、ESLに焦点を絞った研究としては90年に “*Using captioned television to improve the reading proficiency of language minority students*” が発表されている。また、同年6月には教室におけるCC活用法、指導アイデアをまとめた “*Curriculum Guide -The New “English” Teacher: A Guide to Using Captioned Television With Language Minority Students-*” を発行している。

いずれも Project Director はテンプル大学の Dr. Susan B. Neuman で、読解教材としての研究、活用が中心である。

2. 被験者別 CC 研究の成果

難聴者以外の研究は、対象となる被験者別に、(1) ESL 学習者、(2) 学習障害及び低学力の L1 学習者、(3) 通常の L1 学習者の三つに分けられる。CCを使った授業とその効果について紹介したものとしては、Parlato (1986)、Parks (1988)、Spanos & Smith (1990)、Webb, Vanderplank, & Parks (1994) などがあるが、実験方法等を明示した実験報告をまとめると次のようになる。

2-1. ESL 学習者

研究	Dow & Price (1983)	Markham (1989)	•NCI(1990) •Neuman & Koskinen (1992)	Garza (1991)	Markham (1993)
目的	CCTV の内容理解への効果を探る。	CC のリスニング能力への効果調べる。	comprehensible input としての CCTV が語彙習得に効果があるかを検証する。	•CC の効果は外国語全般へ一般化可能かを調査する。 •CCTV の上級学習者 (TOEFL 500 - 550) への効果を探る。	映像が内容理解に及ぼす影響を調べる。(CCTV の音声と映像の相関性の高低の違いが及ぼす影響を調べる ¹⁾)
被験者数	450	76 (上級 31、中級 24、初級 21)	129	110 (うち ESL は 70 ²⁾ 全員上級レベル	71 (上級者 37、中級者 34 ³⁾)
被験者	大学生	大学生	中学一、二年生	大学生	大学生・大学院生
教材名	言及なし。	3-2-1 Contact (難度の異なる2エピソードを使用)	3-2-1 Contact (9エピソードを使用)	英・露語共に映画等5種類ずつ(ドラマ、コメディ、ニュース、アニメ、音楽)	3-2-1 Contact (難度、相関度の異なる2エピソードを使用)
実験方法	CC ありと CC なしのグループに分け、視聴後テスト実施。	各グループを CC ありと CC なしに分け、難度の異なる2エピソードを視聴後、テスト実施。	CCTV、TV、テキスト+音読、テキストのみの4グループに分けて、授業前と後に語彙テスト実施。さらに視聴内容を筆記で再現させた。	各グループを CC ありとなしに分け、各エピソードを2回視聴後テスト実施。また、5人に対し口頭で視聴内容を再現させた。	各グループを CC ありと CC なしに分け、難度、相関度の異なる2エピソードを視聴後、テスト実施。
視聴時間	言及なし。	7分 (2.5分と4.5分)	1回5~8分を週2回ずつ9週間実施。	約18分 (2~4分×5種類)	10.5分 (4.5分と6分)
テストの内容	内容に関する択一問題。	内容に関する28問の択一問題。	•択一式語彙問題。(90問) •視聴内容の再現問題(筆記)	内容に関する択一問題。(50問)	視聴した内容の記述問題。(5分間)
結果	CC ありグループの方が好成績。	3グループとも CC ありの方が好成績。	•語彙、内容テスト共に CCTV>TV>テキスト+音読>テキストのみの順。 •incidental learning は語学力影響大。(rich get richer.)	•CC ありの方が好成績。(特に音楽ビデオにおいて顕著) •内容再現においても CC ありの方がより正確。	•低相関性ビデオでは CC ありの方が好成績。 •高相関性ビデオでは、成績に大差なし。
動機づけ	効果あり	言及なし	言及なし	言及なし	言及なし
備考	文化背景を学ぶのにも役立つと指摘。	•メディアの多重視聴に好意的。 •長期にわたる実験の必要性を指摘。	•メディアの多重視聴に好意的。 •初級学生に対する指導の必要性を指摘。	•100% 正確な CC。 •メディアの多重視聴に好意的。 •他言語への一般化には懐疑的。	CC の使用時期、方法を検討する必要性を指摘。

- 1) 実験の目的として、それまでの実験は相関性の高いもの(映像の影響が大きいもの)に限られていたためと述べている。
- 2) 残り40名の被験者は外国語としてロシア語を学習する米国人大学生である。
- 3) 上級者は TOEFL スコア 590-615、中級者は 550-570 としている。

2-2. 学習障害及び低学力のL1学習者

研究	●NCI(1983) ●Koskinen, Wilson, & Jensema (1985)	●NCI(1986) ●Koskinen, Wilson, Gambrell & Jensema (1986)	Goldman & Goldman (1988)	Bean & Wilson (1989)
目的	CCを使った授業を試行し、教師、学生の反応を探る。	読解教材としての効果を探る。 (<i>sight vocabulary, oral reading, comprehension</i>)	読解教材としての効果を探る。 (<i>sight vocabulary, writing, comprehension</i>)	読解教材としての効果を探る。 (<i>sight vocabulary</i> 中心)
被験者数	35+教師 10	77	言及なし	24
被験者	小学2~6年生	9~13才	高校生	成人
教材 番組名	<i>Scooby Doo, Sesame Street</i> 等複数	●3-2-1 <i>Contact</i> (4エピソードを使用) ●アニメ番組 (但しアニメ番組はテストには関係なし)	<i>Amazing Stories, Family Ties, The Cosby Show, Perfect Strangers</i> 等複数	3-2-1 <i>Contact</i> (5エピソードを使用)
方法	CCを使った授業実施後、教師、学生にアンケート調査。教師間で討議。	CCTV音あり、CCTV音なし、CCなしTV、スクリプトのみの4調査群に分け実験。	音あり視聴状態から途中で音なし視聴へ。	CCTV指導あり、CCTV指導なし、スクリプト・指導ありの3調査群に分け実験。
視聴時間	10-20分。 4週間実施。	一回2分の場面を3週間で計4回視聴。	一授業につき約24分 (前半音あり、後半音なし)	一回2~3分の場面を、3週間で計5回視聴。
テストの内容	実施していない。	授業ごとに語彙20問と内容に関する穴埋め10問、又は筆記5問など。	授業ごとに内容、語彙に関する20問、実験前と後に語彙30問。	授業ごとに語彙20問と音読。
結果	言及なし。	調査群間に大差はないが全体的には、CCTV音あり>CCなしTV>CCTV音なし>スクリプトの順。	概して成績は良かったが、効果の実証には至らない。 (<i>very encouraging but not conclusive</i>)	3調査群とも成績は上昇したが、調査群間には大差なし。
動機づけ	大きな効果が見られた。	大きな効果が見られた。	大きな効果が見られた。	大きな効果が見られた。
備考	●ESLへの言及あり。 ●参加教師10人の評価・意見(非常に好意的)を含む。 ●メディアの多重視聴の効果に肯定的。	●ESLへの言及あり。 ●長期間にわたる効果の検証の必要性を説く。 ●メディアの多重視聴の効果に肯定的。	●実践報告の形式。 ●読解力アップに直接つながるかに関しては否定的。 ●原作本等を利用した読解-視聴二元方式への言及あり。	●被験者の数が、差が出なかった原因としている。 ●指導なしグループも指導ありグループと同様に成績向上。(CCTVの効果、可能性に肯定的)

2-3. 通常のL1学習者

研究者	Gladhart, Lebbin, & Layton (1987) (cited in Rickelman, Henk, & Layton, 1991)	Spath (1990) (cited in Rickelman, Henk, & Layton, 1991)
被験者数	22	言及なし
被験者	小二	小三、小四
教材名	<i>Reading Rainbow</i>	言及なし

目的	通常の指導法に比べ、語彙力増強に効果があるかを調査。	同左
結果	成績には大差なし。 動機づけに大きな効果あり。	同左

これらの結果から、特に目立つ点を拾ってみると、

- ① 実験方法は、3～5分程度の短時間の場面を一回視聴させてテストを行う形式が多く、実験期間も短期のものが多い。合計視聴時間はわずか10分程度など、極めて短時間の実験で効果を探ろうとしているものもある。
- ② 教材はテレビ番組が多く、映画を扱っているものはわずか一例 (Garza, 1991) だけである。その中でも *3-2-1 Contact*⁴ という子供向け教育番組がよく使用されている。
- ③ 動機付けには大きな効果が見られたとするものが多い。
- ④ ESL 学習者を被験者とするものは、「CC あり視聴」の方が「CC なし視聴」より効果ありと結論づけているものが多い。
- ⑤ L1 学習者 (学習障害及び通常の学習者) を被験者とするものでは、調査群間に大きな差は認められていない。
- ⑥ 「読解教材としての可能性、効果を探る」を目的としている実験は、実験方法を見る限り、読解力よりむしろ語彙力増強にどれだけ効果があるかを調べている。
- ⑦ メディアの多重化には好意的なものが多い。

ただし④については、被験者の語学レベルの分類基準が研究者によってかなり違うため注意を要する。例えば、Markham (1993) の場合、被験者のレベルは中級者 = TOEFL スコア 550-570、上級者 = 590-615 となっており、Garza (1991) の場合の上級者の基準、「TOEFL スコア 500 以上」とはかなり差がある。いずれにしても、両ケースとも日本の教育現場からすればかなりの上級者の場合として理解しなければならない。従って、こうした上級者に関しては CC は効果ありと考えても差し支えないかもしれないが、それ以外の学習者、特に我々が普段教えている学生に関しても効果があるとは残念ながら結論づけられない。

3. 日本の英語教育への示唆

上記米国 CC 研究の結果を基に、今後の日本における CC 研究への応用が考えられる点をいくつか挙げてみたい。

3-1. 教材選択の新たな視点(音声・映像・文字の相関性)

まず、教材選択に関しては、日本では現在映画が中心であるが、米国の先行研究ではわずかに Garza (1991) があるだけである。大半はテレビ番組を教材として使用しているが、中でも目立つのが、3-2-1 Contact という子供向け科学教育番組である。この理由としては、

- 子供向けではあるが科学知識を扱った内容で、成人にも関心が高い。
- 1 エピソードが短く (5～10分)、完結式である。(一回の授業で終わる)
- 教師用指導書が完備されている。(NCI が発行)
- 著作権上の問題がクリアされている。⁵
- CC の提示速度が毎分100～120語で、他のニュース番組等と比較した場合、被験者に適度な速度である。

などが挙げられているが、ここでは更に「音声・文字と映像との相関性の高さ」も指摘しておきたい。この番組は、食物連鎖や雲の出来方、酸性雨など基礎的な科学知識に関する映像に解説ナレーションが入る形式で、映像・音声・文字の3メディアの相関性が非常に高い。例えば、消化の仕組みを説明する場面では教師が enzyme を指差しながら「これが enzyme です。」と説明するといった具合である。したがって、視聴者はたとえ enzyme が未知の単語の場合でも映像から意味を想像することが可能である。NCI (1990) も CC 付きでただ視聴するだけでも incidental learning につながるのではないかとこの観点から同番組を教材として実験を行い、映像と音声・文字の相関性が高いほど、すなわち、映像による contextual support の度合いが高いほど、語彙問題の正解率が高かったと報告している。

映画等の場合、確かに場面設定は与えられても(例えば、ホテルのロ

ビーでの会話等)、映像が必ずしも台詞(音声・文字)の理解に直接つながらないことが多い。映像と音声・文字の相関性が低い場合、どうしても映像教材を使わなければならないのかという疑問が当然出てくる。

この点は、これまであまり十分注目されてこなかったように思われるが、Garza (1991:241) は、*situational appropriateness, grammatical and lexical complexity, inherent interest value to university-level students, variety of salient speech functions, high audio/video correlation* の5つを教材選択の基準を挙げている。特に最後の「音声・映像の相関性の高さ (high audio/video correlation)」は、CC付き映像教材を選択、利用する上では極めて重要な基準ではないだろうか。

日本においても現在オープン・キャプション形式によるニュース、テレビ番組が一部放映されているが、種類・内容等を考慮すると、今後しばらくはやはりCC付き映画が中心となると思われる。しかし、ただ映画を使うというだけでなく、どんな映画、さらにその中のどんな場面が教室利用に適切か、この映像・音声・文字の3メディアの相関性の高さも考慮しながら、さらに幅広い観点から教材選択の議論を深めてゆく必要性を強く感じる。

3-2. 提示法、指導法研究のさらなる必要性

「CC付き視聴」の方が成績が良かったという結果が得られた実験もあるが、例えばGarza (1991) は、TOEFLスコア500以上の上級学習者を被験者としているなど、実験結果をすぐに一般化して考えることは出来ない。また、低学力のL1学習者を被験者とするものは、いずれも調査群間に大差はないという結果が出ている。これは、CCというインプットが上級以外の学習者には難し過ぎて *comprehensible input* とはなっていないことを意味しているのではないだろうか。NCI (1990) は「ただ視聴するだけでも *incidental learning* の効果が見られる。」と報告しているが、同時に「*incidental learning* は語学力の影響が大きい。」と初級学習者への指導の必要性を指摘している。このように、一定レベル以上の語学力がないとCCは *comprehensible input* とはならないし、その一定レベルというのが実際かなり高いということを米国先行研究の結果は図らずも実証する形となっている。

このことから、日本の教育現場を想定した場合、一回限りの短時間

の CC 付き視聴ですぐにその効果が確認出来るというものではないように思われる。日頃日本語字幕でビデオを見ても、後で字幕をほとんど覚えていないのと同様、授業においても CC 付きで視聴するとなんとなく勉強した気になるだけで終わっている学生が残念ながら見受けられる。どのように CC を活用すれば語彙習得、内容理解に結びつか、効果的な指導、提示方法の研究が今後は特に重要になるであろう。

日本の先行研究においては、小張 (1996:121) では「2 言語 (日本語・英語) を適度な割合で使用した方が、より効果が上がる」、また、亀井・広瀬 (1994:10) においても「3 メディアを併用する場合、学習者の英語力と達成目標に合わせたメディアの提示方法を工夫することが重要であろう」と提示方法の重要性は指摘されているが、具体的にどのような形で併用、提示したら最も効果があるかについての議論はまだこれからといった段階である。⁶

3-3. 読解・語彙教材としての視点

これまで日本では CC は一般にリスニングとの関連で研究されることが多かったが、米国の先行研究では、読解教材として効果・可能性を探っているものが多い。また、それらも研究目的としては「読解教材としての効果を探る」を挙げてはいるものの、実験方法から考察すると実際には「語彙習得に関する効果」を調べているものが多い。日本においても、語彙指導、読解指導など幅広い立場から CC を活用するという視点があってもよいのではないだろうか。

4. おわりに

米国の先行研究を一覧した限りでは、CC の効果は米国においてもまだ十分実証されていないとの印象を受ける。また、上級学習者以外の学習者に対する効果は実際かなり疑わしくさえある。しかし、CC をこのままだ単に動機づけに効果的な教材というだけで終わらせて果たして良いのであろうか。

CC は、普段我々が授業を担当している日本の学習者を念頭に置いた

場合、インプットとしてはかなり難しい部類に属する。これには、提示速度の問題の他、後戻りして読み返すことが出来ない、普段接する機会の少ない口語表現が多く用いられているなど、様々な要因があろう。そのため、ただ視聴させるだけでの効果云々を問うより、むしろどのようにしたらCCを通常の学習者にも理解可能なものにすることが出来るか、効果的な提示法、指導法の研究が今後特に必要だと感じる。

また、今後のCC研究においても、米国の例から、リスニングだけでなく、語彙指導、読解指導をはじめとする様々な視点、アプローチがあるべきではないだろうか。こうした様々な視点からCCを研究してゆくことによりCCの効果はいずれ実証されることを筆者は信じて疑わない。

(本稿は、1997年3月8日映画英語教育学会第3回研究大会での口頭発表に加筆修正をしたものである。)

■ 注

- 1) 関谷 (1995:164-65) には米国のケーススタディへの簡略な言及が見られる。
- 2) 連絡先は1900 Gallows Road, Suite 3000, Vienna, VA 22182, USA. (703) 917-7600.
- 3) 同氏は現在、Institute for Disabilities Research and Training, Inc. の Vice Presidentとして研究開発に携わっている。
- 4) ビデオ入手可能。連絡先は、Great Plains National (GPN), P.O. Box 80669, Lincoln, Nebraska 68501, USA. (402) 472-2007.
- 5) Spanos & Smith (1990) によれば、1981年米国議会で承認されたガイドラインでは営利を目的としない教育機関でのテレビ番組の教室利用は次の7条件を満たす限り認められている。(1) 教師自身が録画をする、(2) 著作権者の掲示をする、(3) 授業目的のみに使用する、(4) 録画してから10授業日間の間に使用する、(5) 原則として一回の使用、ただし教育上必要であれば繰り返し使用しても良い、(6) 一部のみ使用するのが良いが、勝手な編集はしてはならない、(7) 録画してから45日以内に消去する。
- 6) 授業実践例としては、角山 (1997) が、「視聴前課題と連動したキーワード提示法」、「日本語・英語の同時提示法」を紹介している。
- 7) 小張 (1996)、宮本 (1991)、鈴木 (1994) など。

■ 参考文献

- Bean, R.M. & Wilson, R.M. (1989). Using closed-captioned television to teach reading to adults. *Reading Research Instruction*, 28(4), 27-37.
- Dow, A. & Price, K. (1983). Effects of captioned television on adult ESL learners. *MATESOL Newsletter*, 12(2).

- Garza, T. J. (1991). Evaluating the use of captioned video materials in advanced foreign language learning. *Foreign Language Annals* (New York), 24, 239-58.
- Goldman, M. & Goldman, S. (1988). Reading with closed captioned TV. *Journal of Reading*, 31(5), 458-461.
- Koskinen, P., Wilson, R.M. & Jensema, C. (1985). Closed-Captioned Television: A New Tool for Reading Instruction. *Reading World*, 24, 1-7.
- Koskinen, P., Wilson, R.M., Gambrell, L. & Jensema, C.J. (1986). Closed-Captioned Television: A new technology for enhancing reading skills of learning disabled students. *ERS spectrum: Journal of School Research and information*, 4(2), 9-13.
- Markham, P.L. (1989). The Effects of Captioned Television Videotapes on Listening Comprehension of Beginning, Intermediate, and Advanced ESL Students. *Educational Technology*, 29(10), 38-41.
- Markham, P.L. (1993). Captioned television videotapes: Effects of visual support on second language comprehension. *Journal of Educational Technology Systems*, 21(3), 183-91.
- National Captioning Institute. (1983). A report on two pilot projects which used captioned television in classrooms to teach reading to hearing children. *Research Report 83-6*. Falls Church, VA: National Captioning Institute.
- National Captioning Institute. (1986). Closed-captioned television: A new technology for enhancing reading skills of learning disabled students. *Research Report 86-1*. Falls Church, VA : National Captioning Institute.
- National Captioning Institute. (1990). *Using captioned television to improve the reading proficiency of language minority students*. Falls Church, VA: The National Captioning Institute.
- National Captioning Institute. (1990). *Curriculum Guide -The New "English" Teacher: A Guide to Using Captioned Television With Language Minority Students-*. Falls Church, VA: The National Captioning Institute.
- Neuman, S. & Koskinen, P. (1992). Captioned television as comprehensible input: Effects of incidental word learning from context for language minority students. *Reading Research Quarterly*, 27(1), 95-106.
- Parks, C. (1988). Using CC TV to teach ESL. *NCI Annual Bulletin*. Richmond, VA: NCI, Inc.
- Parlato, S. (1986). *Watch your language: Captioned media for literacy*. Silver Spring, MD: TJ Publishers.
- Rickelman, R.J., Henk, W.A. & Layton, K. (1991). Closed-captioned television: A viable technology for the reading teacher. *The Reading Teacher*, 44(8), 598-599.
- Spanos, G. & Smith, J. (1990). Closed captioned television for adult LEP literacy learners. *ERIC Digest*. Washington, D.C.: National Clearinghouse for ESL Literacy Education. (EDRS No. ED321 623)

- Webb, M., Vanderplank, R., & Parks, C. (1994). Developing ESL materials for closed-captioned video programs. Paper presented at the Teachers of English to Speakers of Other Languages annual convention, Baltimore, MD.
- 小張敬之 (1996) 「日本語字幕・英語字幕付きビデオ教材の聴取理解に及ぼす効果の横断的研究 (2)」『外国語教育論集』第18号, 113-125.
- 角山照彦 (1997) 「語彙指導における英語字幕の活用法—効果的な提示方法をめぐって—」第23回全国英語教育学会福井研究大会発表資料.
- 亀井節子・広瀬恵子 (1994) 「外国語理解におけるメディア多重化の効果:学習者の英語力との関係で」*Language Laboratory*, No. 31,1-17.
- 鈴木典子 (1994) 「キャプション付き映画の教育的効果について」『東洋女子短期大学紀要』No.26, 71- 84.
- 関谷早苗 (1995) 「映画英語教育とCC」『映画英語教育のすすめ』スクリーンプレイ出版, 163-66.
- 宮本節子 (1991) 「英語字幕の利用効果を探る: A Preliminary Report」『名古屋学院大学外国語教育紀要』No.22,21-32.

■ 資料

National Captioning Institute, Inc. Department of Research Report Listing (Jensema and Fitzgerald, authors)

81-1	Audience Reactions to Football Scoreboard Captioning
81-2	The 1980 Closed Captioned Television Audience
81-3	Audience Reaction to Inauguration Captioning
81-4	A Report on the Sears-Lions Telecaption Demonstrations
81-5	Closed Caption Decoder Sales and the "Core" of the Hearing-impaired Community
81-6	A Survey of the Opinions of Closed-caption Decoder Owners
81-7	A Comparison of Three Groups Interested in Closed Captioning
81-8	A Report on Data Collected at the Mature Americans' "Expo" Tampa, FL.
81-9	A Survey of Captioned Television News Program Preferences
81-10	Captioned Films and Closed-caption Television Viewing by Clubs for the Deaf
81-11	A Survey of Closed-caption Television Use in Schools for the Hearing-impaired
81-12	A Demographic Profile of Households with Closed-captioned Television
81-13	The Closed-caption Television Viewing Preferences of Hearing-impaired Children
81-14	Daytime Closed Caption Television Preferences
81-15	The Attitudes of Hearing-impaired Viewers Toward Closed-captioning Television Commercials
81-16	Closed Caption Decoder Ownership and Program Preferences among Two Groups of Hearing-impaired People
82-1	A Home Video Survey of a Sample of Households Having a High Percentage of Hearing-impaired Residents
82-2	Public Awareness of Closed Caption Television in the Dallas/Fort Worth Metropolitan Area
82-3	Characteristics of the Closed Caption Television Audience on January 1, 1982
82-4	Audience Reactions to the Closed Captioned ABC World News Tonight

82-5	The Reaction of the Closed Caption Television Audience to Text Services
82-6	Public Awareness of Closed Caption Television in the Pittsburgh Metropolitan Area
82-7	Awareness of Closed Captioned Television among Parents of Hearing-impaired Children
82-8	The Market for Closed-Captioned Cable Television in New York City
83-1	The Propensity of Hearing-impaired Television Viewers in Two Cities to Subscribe to Cable to Obtain Closed Captioned Programming
83-2	Reactions to Captioned News Services
83-3	Characteristics of the Audience for Closed Caption Television on December 31, 1982
83-4	The Hard of Hearing Market for Closed Caption Television
83-5	Hearing Impaired Children's Comprehension of Closed Captioned Television Programs
83-6	A Report on Two Pilot Projects Which Used Captioned Television in Classrooms to Teach Reading to Hearing Children
84-1	Characteristics of the Audience for Closed Caption Television on December 31, 1983
84-2	School Use of Closed Captioned Television
85-1	Characteristics of the Audience for Closed Captioned Television on December 31, 1984
85-2	Using Closed Captioned Television in the Teaching of Reading to Deaf Students
86-1	Closed Captioned Television: A New Technology for Enhancing Reading Skills of Learning Disabled Students
86-2	Characteristics of the Audience for Closed-captioned Television 1980 - 1985

■ Abstract

A Review of Closed Captions Research in the United States

-What implications does it have for the EFL classroom in Japan?-

Teruhiko KADOYAMA

This paper is intended to report on the results of research studies on closed-captioned television or video materials conducted during the past 15 years in the United States where this technology was originally developed, and suggests what implications this may have for the EFL classroom in Japan.

The findings appear to confirm the view that captioned video materials are a powerful motivating tool and can be successfully used in Japan not only for improving students' listening comprehension, but also for reading and vocabulary development. Suggestions for further research are also included.